

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成25年4月25日(2013.4.25)

【公表番号】特表2013-500381(P2013-500381A)

【公表日】平成25年1月7日(2013.1.7)

【年通号数】公開・登録公報2013-001

【出願番号】特願2012-522822(P2012-522822)

【国際特許分類】

C 08 L 101/12 (2006.01)

C 08 K 5/103 (2006.01)

C 08 L 71/02 (2006.01)

C 08 L 71/08 (2006.01)

【F I】

C 08 L 101/12

C 08 K 5/103

C 08 L 71/02

C 08 L 71/08

【手続補正書】

【提出日】平成25年3月5日(2013.3.5)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0037

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0037】

同じ成分を有するが、しかしHLB値が7～8のアルキルフェノールエトキシレートを界面活性剤として使用するプラスチゾルの粘度が900mPa.sであるのと比較して、組成物A及びBの粘度は725mPa.sであり、そしてCの粘度は750mPa.sであった。

以下もまた開示される。

[1] プラスチゾル及びオルガノゾルから成る群より選択されたポリマー組成物であって、微粉化したポリマー及び少なくとも1種の高溶媒和可塑剤を含む液相を含み、親水性／親油性バランス(HLB)値が12以上の少なくとも1種の界面活性剤を含む、ポリマー組成物。

[2] 該皮膜形成ポリマーが、ハロゲン化ビニルのホモポリマー及びコポリマー、アクリルポリマー、及びこれらの混合物から成る群より選択される、上記[1]に記載のポリマー組成物。

[3] 該ポリマーがポリ塩化ビニルである、上記[2]に記載のポリマー組成物。

[4] 該ポリマー組成物が、該ポリマー組成物の総重量を基準として約30～約60重量パーセントの該ポリマーを含む、上記[1]に記載のポリマー組成物。

[5] 該高溶媒和可塑剤が、ジオールのジベンゾエート、グリコールのジベンゾエート、オリゴマーグリコールのジベンゾエート、及びこれらの混合物から成る群より選択される、上記[1]に記載のポリマー組成物。

[6] 該高溶媒和可塑剤がジエチレングリコールジベンゾエートである、上記[5]に記載のポリマー組成物。

[7] 該ポリマー組成物が、該ポリマー組成物の総重量を基準として、約5～約50重量パーセントの高溶媒和可塑剤を含む、上記[1]に記載のポリマー組成物。

[8] 該界面活性剤が、エトキシル化オクチルフェノール、エチレンオキシドとプロピ

レンオキシドとのコポリマー、及びこれらの混合物から成る群より選択された非イオン性界面活性剤である、上記〔1〕に記載のポリマー組成物。

〔9〕 該界面活性剤のHLB値が約12～約30である、上記〔1〕に記載のポリマー組成物。

〔10〕 該界面活性剤が非イオン性界面活性剤であり、そして該ポリマー組成物が、ポリマー組成物100部当たり約0.1～約2重量部の非イオン界面活性剤を含む、上記〔1〕に記載のポリマー組成物。

〔11〕 オルト、イソ及びテレフタレートのエステル、クエン酸のエステル、1,2-、1,3-及び1,4-シクロヘキサンジカルボン酸のエステル、並びに無水物から成る群より選択された少なくとも1種の他の可塑剤をさらに含む、上記〔1〕に記載のポリマー組成物。

〔12〕 該ポリマー組成物が、該ポリマー組成物の重量を基準として、約5～約40重量パーセントの別の可塑剤を含む、上記〔11〕に記載のポリマー組成物。

〔13〕 一価アルコールのベンゾエート、多価アルコールのエステル、及びこれらの混合物から成る群より選択された少なくとも1種の希釈可塑剤をさらに含む、上記〔1〕に記載のポリマー組成物。

〔14〕 該ポリマー組成物が、該ポリマー組成物の重量を基準として、約3～約15重量パーセントの希釈可塑剤を含む、上記〔13〕に記載のポリマー組成物。

〔15〕 芳香族炭化水素、脂環式炭化水素、及び脂肪族炭化水素から成る群より選択された少なくとも1種の希釈剤をさらに含む、上記〔1〕に記載のポリマー組成物。

〔16〕 プラスチゾル及びオルガノゾルの粘度を低減する方法であって、膜形成ポリマーを、高溶媒和可塑剤及びHLB値が12以上の少なくとも1種の界面活性剤とブレンドすることを含む、プラスチゾル及びオルガノゾルの粘度を低減する方法。

〔17〕 該皮膜形成ポリマーが、ハロゲン化ビニルのホモポリマー及びコポリマー、アクリルポリマー、及びこれらの混合物から成る群より選択される、上記〔16〕に記載の方法。

〔18〕 該皮膜形成ポリマーがポリ塩化ビニルである、上記〔17〕に記載の方法。

〔19〕 該ポリマー組成物が、該ポリマー組成物の総重量を基準として約30～約60重量パーセントの皮膜形成ポリマーを含む、上記〔16〕に記載の方法。

〔20〕 該高溶媒和可塑剤が、ジオールのジベンゾエート、グリコールのジベンゾエート、オリゴマーグリコールのジベンゾエート、及びこれらの混合物から成る群より選択される、上記〔16〕に記載の方法。

〔21〕 該高溶媒和可塑剤が、ジエチレングリコールジベンゾエートである、上記〔20〕に記載の方法。

〔22〕 該ポリマー組成物が、該ポリマー組成物の総重量を基準として、約30～約60重量パーセントの高溶媒和可塑剤を含む、上記〔16〕に記載の方法。

〔23〕 該界面活性剤が、エトキシリ化オクチルフェノール、エチレンオキシドとプロピレンオキシドとのコポリマー、及びこれらの混合物から成る群より選択された非イオン性界面活性剤である、上記〔16〕に記載の方法。

〔24〕 該界面活性剤のHLB値が約12～約30である、上記〔16〕に記載の方法。

〔25〕 該界面活性剤が非イオン性界面活性剤であり、そして該ポリマー組成物が、ポリマー組成物100部当たり約0.1～約2重量部の非イオン界面活性剤を含む、上記〔16〕に記載の方法。

〔26〕 該ポリマー組成物が、オルト、イソ及びテレフタレートのエステル、クエン酸のエステル、1,2-、1,3-及び1,4-シクロヘキサンジカルボン酸のエステル、並びに無水物から成る群より選択された少なくとも1種の他の可塑剤をさらに含む、上記〔16〕に記載の方法。

〔27〕 該ポリマー組成物が、該ポリマー組成物の重量を基準として、約30～約60重量パーセントの別の可塑剤を含む、上記〔26〕に記載の方法。

[2 8] 一価アルコールのベンゾエート、多価アルコールのエステル、及びこれらの混合物から成る群より選択された少なくとも 1 種の希釈可塑剤をさらに含む、上記 [1 6] に記載の方法。

[2 9] 該ポリマー組成物が、該ポリマー組成物の重量を基準として、約 3 ~ 約 1 5 重量パーセントの希釈可塑剤を含む、上記 [2 8] に記載の方法。

[3 0] 該ポリマー組成物が、芳香族炭化水素、脂環式炭化水素、及び脂肪族炭化水素から成る群より選択された少なくとも 1 種の希釈剤をさらに含む、上記 [1 6] に記載の方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

プラスチゾル及びオルガノゾルから成る群より選択されたポリマー組成物であって、微粉化したポリマー及び少なくとも 1 種の高溶媒和可塑剤を含む液相を含み、親水性 / 親油性バランス (H L B) 値が 1 2 以上の少なくとも 1 種の界面活性剤を含む、ポリマー組成物。

【請求項 2】

該皮膜形成ポリマーが、ハロゲン化ビニルのホモポリマー及びコポリマー、アクリルポリマー、及びこれらの混合物から成る群より選択される、請求項 1 に記載のポリマー組成物。

【請求項 3】

該ポリマー組成物が、該ポリマー組成物の総重量を基準として約 3 0 ~ 約 6 0 重量パーセントの該ポリマーを含む、請求項 1 に記載のポリマー組成物。

【請求項 4】

該高溶媒和可塑剤が、ジオールのジベンゾエート、グリコールのジベンゾエート、オリゴマーグリコールのジベンゾエート、及びこれらの混合物から成る群より選択される、請求項 1 に記載のポリマー組成物。

【請求項 5】

該ポリマー組成物が、該ポリマー組成物の総重量を基準として、約 5 ~ 約 5 0 重量パーセントの高溶媒和可塑剤を含む、請求項 1 に記載のポリマー組成物。

【請求項 6】

該界面活性剤が、エトキシル化オクチルフェノール、エチレンオキシドとプロピレンオキシドとのコポリマー、及びこれらの混合物から成る群より選択された非イオン性界面活性剤である、請求項 1 に記載のポリマー組成物。

【請求項 7】

オルト、イソ及びテレフタレートのエステル、クエン酸のエステル、1 , 2 - 、 1 , 3 - 及び 1 , 4 - シクロヘキサンジカルボン酸のエステル、並びに無水物から成る群より選択された少なくとも 1 種の他の可塑剤をさらに含む、請求項 1 に記載のポリマー組成物。

【請求項 8】

一価アルコールのベンゾエート、多価アルコールのエステル、及びこれらの混合物から成る群より選択された少なくとも 1 種の希釈可塑剤をさらに含む、請求項 1 に記載のポリマー組成物。

【請求項 9】

プラスチゾル及びオルガノゾルの粘度を低減する方法であって、膜形成ポリマーを、高溶媒和可塑剤及び H L B 値が 1 2 以上の少なくとも 1 種の界面活性剤とブレンドすることを含む、プラスチゾル及びオルガノゾルの粘度を低減する方法。

【請求項 10】

該皮膜形成ポリマーが、ハロゲン化ビニルのホモポリマー及びコポリマー、アクリルポリマー、及びこれらの混合物から成る群より選択される、請求項9に記載の方法。

【請求項 1 1】

該ポリマー組成物が、該ポリマー組成物の総重量を基準として約 30 ~ 約 60 重量パーセントの皮膜形成ポリマーを含む、請求項9に記載の方法。

【請求項 1 2】

該高溶媒和可塑剤が、ジオールのジベンゾエート、グリコールのジベンゾエート、オリゴマー・グリコールのジベンゾエート、及びこれらの混合物から成る群より選択される、請求項9に記載の方法。

【請求項 1 3】

該ポリマー組成物が、該ポリマー組成物の総重量を基準として、約 30 ~ 約 60 重量パーセントの高溶媒和可塑剤を含む、請求項9に記載の方法。

【請求項 1 4】

該界面活性剤が、エトキシル化オクチルフェノール、エチレンオキシドとプロピレンオキシドとのコポリマー、及びこれらの混合物から成る群より選択された非イオン性界面活性剤である、請求項9に記載の方法。

【請求項 1 5】

該ポリマー組成物が、オルト、イソ及びテレフタレートのエステル、クエン酸のエステル、1,2-、1,3-及び1,4-シクロヘキサンジカルボン酸のエステル、並びに無水物から成る群より選択された少なくとも 1 種の他の可塑剤をさらに含む、請求項9に記載の方法。

【請求項 1 6】

一価アルコールのベンゾエート、多価アルコールのエステル、及びこれらの混合物から成る群より選択された少なくとも 1 種の希釈可塑剤をさらに含む、請求項9に記載の方法。